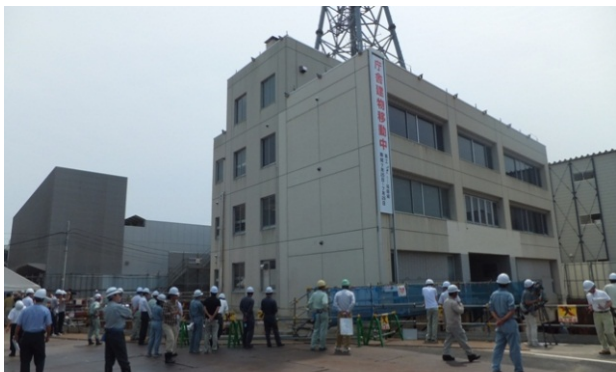


## （仮称）にいこく庁舎「曳き家工事」の現場見学会を開催しました。



7月26日（火）に、（仮称）にいこく庁舎改築工事の「曳き家工事」現場見学会を開催しました。

当日は暑い中32名の方が参加され、移動装置に載せられた重さ約2,600tの既存庁舎C棟が、6台の推進ジャッキによってゆっくりと移動していく様子を熱心に見学されました。質問コーナーでは「地震への対策」や、「建物の向きに誤差が出た時の補正方法」などの質疑応答が交わされました。

また、夕方のニュースや新聞記事にも取り上げられ、関心を持って頂けたと感じています。なお「曳き家工事」は、現場見学会の後も順調に作業が進み、28日（木）には所定の位置まで移動、完了させることが出来ました。

現在は既存庁舎C棟の新しい基礎を建設中ですが、今後は既存庁舎C棟と完成済み庁舎A-1棟をつなぐA-2棟の新築などを行い、平成24年3月に全体工事を完了予定です。

関連URL:

（仮称）にいこく庁舎改築事業の工事概要及び工事進捗状況  
<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/info/kouji/niikokutyosya.pdf>

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2011070802genbakengaku.pdf>

## 新潟まつり「おまつり広場」内で「道路ふれあいコーナー」を開設しました。

8月6日（土）、7日（日）の二日間、新潟市中央区万代1丁目の新潟まつり「おまつり広場」内で「道路ふれあいコーナー」を開設いたしました。

「道路ふれあいコーナー」は、毎年8月の「道路ふれあい月間」における啓蒙活動の一環として開設されているもので、道路を利用している皆様に道路の役割及び重要性を再認識してもらい、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図り、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的として、国道や市道等の道路管理者、新潟県警察の交通管理者、ガス・水道・通信線等といった道路占有者等によって、各種のイベントコーナーを設営しました。

当日は、夏休み中の土日ということもあり、お子様や親子連れの方、観光で新潟市を訪れている方など、たくさんの方が会場にいられて、真夏の昼のイベントを楽しんでおられました。

特に、降雨体験車と起震車（地震体験装置）のコーナーでは、今年3月に発生した東日本大震災や7月の新潟・福島豪雨の影響もあり、大勢の方々が関心を持って参加されていました。

また、会場内に設置されたステージにおいて、5月24日（火）に萬代橋の落書きを見事消きって頂きました萬代橋ファン倶楽部の保坂さんと御協力頂きました石材屋の羽田さんの2名に対し、新潟国道事務所長から感謝状の贈呈を行わせて頂きました。

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2011080401hureaicorner.pdf>



## 萬代橋誕生祭のにいこくブースへ沢山訪れて頂きました！

新潟市のシンボルとして市民に愛されている「萬代橋」の架橋82周年をお祝いする「萬代橋誕生祭」が、8月20日（土）に行われ、およそ2万人が訪れたお祭りに、にいこくもブースを出展しました。

今年のブースは、3月に発生した東日本大震災を踏まえ、地震に関する“実感型”ブースとなりました。

今年が目玉であった、液状化再現装置「液状くん」は、ビルが地中に沈んだり、マンホールが地震によって竹の子が生えたように浮き上がるなどの“液状化現象”を簡易的に見ることができるもので、子供から年配の方にまで、とても関心を持って見てもらえました。

今から47年前の新潟地震にも耐えた萬代橋。当時は信濃川に架かる周辺の橋で唯一車両通行が可能であり、東西新潟の中心部を結ぶ橋として救援物資の輸送や災害復旧のための大動脈として大きく貢献しました。

“道”が復興に果たす役割は昔も今も変わらない。これからは新潟市民の生活を支える「萬代橋」を、ずっとみんなで大切にしていけたら、と改めて感じました。

関連URL：記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2011081801bandaibashi.pdf>

関連URL：重要文化財『萬代橋』に関するサイト

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/info/bandaibashi/index.html>



液状化再現装置「液状くん」

## 東日本大震災の復興支援に向けて、ブースを出展しました。

東日本大震災からの復興支援という趣旨に賛同し、にいこくは8月20日（土）から21日（日）の間、24時間テレビの万代シティ・チャリティ会場において、「東日本大震災と道路」をテーマに、ブースを出展しました。

2日間で約5万人が訪れたこの会場において、東日本大震災でも活躍したku-SAT（衛星小型画像伝送装置）の実物展示や、地震によって起きる“液状化現象”を簡易的に見ることができる装置を用いて、たくさんの方に見て頂きました。

ku-SATとは、通信衛星を利用し、地上通信が困難な場所でも通信をすることができ、機材は小型軽量で機動力に優れるため、災害初動時のリアルタイム画像伝送・音声送受信に効果を発揮するものです。普段見ることができない物のため、特にブースを訪れた方の注目を多く集めていました。

今後も復興支援に関して、にいこくとしても機会を見て取り組んで参ります。

関連URL：記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/201108180224hourstvcharity.pdf>



## 編集・発行・お問い合わせ

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所 計画課

電話 025-244-2159（代表） 〒950-0912 新潟県新潟市中央区南笹口2-1-65

E-MAIL： [niikoku@hrr.mlit.go.jp](mailto:niikoku@hrr.mlit.go.jp) みちなび新潟：<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/index.html>



にいこく 検索